

講演

「親だからこそ知っておきたい子どもへの性の伝え方」

講師：佐藤繭子さん（助産師、福岡県立大学大学院看護学研究科助産学領域助教）



「子どもの身を守るためには、まず適切な知識を」という思いから、親向け性教育、子ども向け性教育のセミナーを様々な場所で開催している佐藤繭子さんに、ご講演いただきました。

■ 自分が考える「性教育」について考える

- ・ 男性が考える性教育のイメージと女性が考える性教育のイメージは違う。
- ・ 羞恥心はどこからくるのか？
- ・ 子どもの時どんなことを教えてもらいたかったか？

■ 「性教育」は「生（せい）教育」

- ・ 「生きるってどういうこと？」「どこから、どうやって生まれてきたの？」→基本的で、とても大事な質問。はぐらかされると、自分が大切な存在だと信じられなくなる。
- ・ 自己肯定感の低さは自分の“生”を否定し、“生”の否定は自己否定観を促進する。自己否定は順調な自我発達を阻害する。

■ 「あかちゃんはどこからくるの？」に答える

- ・ 「命はどこから来るのか？」自己の生を確認する質問に適切に答えることは自己肯定感アップにつながる。「生きるために生まれてきた大切な存在であること」を教えるためには、性交を伝えることは必須。

■ 性被害を防ぐ

- ・ 就学前から性教育を受けることで、性的虐待や搾取の犠牲にならずにすむ。
- ・ 家庭のなかで性の話をNGにしておく子どもは話してはいけないとことだと思ってしまう。
- ・ 幼いうちから性についての適切な知識を話すことで、マスコミや他人から間違った知識を植え付けられることを防ぐことができる。

中高年男性の私にとって「性教育の話」は少々身構えるテーマであった。日本人は「ひかえめ」をよしとする国民性もあり、性教育については世界と比べて後れぎみであると感じる。

「性教育は生（せい）教育&健康教育」であるという言葉が一番印象に残っている。講演では、適切な知識があれば性被害を防ぐ対策ができ、万が一被害にあったとしても適した対応がとれることや、子どもに伝えるためのツールとしてたくさんの絵本などを紹介された。言いにくい言葉は声に出して練習すること、小出しに何度も伝えること、嘘やはぐらかすことは絶対言わないことなど具体的に子どもへの伝え方を聞いた。へんな羞恥心は捨て「怒られるからかくす、言いにくいから言わない」をなくすべきだと感じた。

【古賀市男女共同参画輝きKogaネット
土岐洋二郎】

参加者感想

性教育のイメージが変わりました。性の健康を守っていくということで家族で話したいと思います。

本当に本当に勉強になったし、来て良かったです。子どもたちが性に対して正しい知識をもてるように、少しずつ明るく楽しく、和気あいあいと話していきたいと思いました。

はずかしいと思わず、正しい知識を伝える事の大切さを学びました。自分自身も知識があいまいだったので学べてよかった。親が伝える大切さがわかった。